

2017年11月26日(日) 中国新聞

読む・知る・学ぶ 五感刺激 認知症ケアへ 大学力

広島文化学園大学 学芸学部子ども学科

来んさいカフェ 山崎晃学部長 他

<研究ブランディング事業>

(9) NIE

2017年(平成29年)11月26日(日曜日)

中

国

業

学

読む・知る・学ぶ

Newspaper In Education

五感刺激認知症ケアへ

大学力

オランダ語で「においをかぐ」と「うとうとする」の言葉を組み合わせた造語「スヌーズレン」が、発達障害のある子どもや認知症の人たちをケアする手法として注目度を高めている。効果を客観的に示す研究を進めるのが、広島文化学園大学学芸学部子ども学科(広島市安佐南区)の山崎晃教授(71)たちのグループだ。

安佐南区の長束キャンパスに8月、約220平方メートルの実験室を開いた。「来んさいカフェ」の名称で毎週火、金曜日、地域に無料で開放。来場者は薄暗く光や香りが変化する室内で、ソファやウオーターベッドに寝転んだり、気泡を4色で照らす筒状の装置で遊んだりして過ごす。

広島文化学園大

学芸学部子ども学科

五感を刺激し、心を穏やかにする効果があるとされているスヌーズレン。「でも、それを裏付けるデータはない」と、山崎教授は指摘する。2020年度を目標に、これまで感覚に頼っていたリラックステクニクを、血圧や心拍数、唾液の成分などのデータで実証したい考えだ。

本年度は学生の指へ電気刺激を与えて、痛みの感じ方を脳波で測定。スヌーズレンの



スヌーズレンの実験室について説明する山崎教授(右)たち

手法を用いると痛みが感じにくくなる効果が確認できたという。山崎教授は「子どもに虫歯の治療や注射をする歯科医や小児科医からも注目され始めた」と語る。

今後は地元の医療機関や高齢者施設の協力を得て、発達障害のある子どもや認知症の高齢者を招き、効果の検証を本格化させる。光や音の変化

の違い、滞在時間による影響を分析し、最適な活用方法を提案する。

子育てに悩む保護者たちなど、幅広い人への応用策も探る。山崎教授は「増え続ける認知症の人への対応や、育児支援の充実が社会的な課題。研究成果を地域に還元したい」と力を込める。

(永山啓一)